



医療法人 今村血管外科クリニック

テーマ
日常生活に負担の少ない
日帰り下肢静脈瘤手術

短時間・短期間・低侵襲の
日帰り下肢静脈瘤手術

日本人の10人に1人、また成人女性の5人に1人が罹患している下肢静脈瘤。静脈内の弁が機能しなくなり血流が逆流・停滞することで、血管が拡張してこぶのような膨らみが現れる疾患だ。見た目以外にも、むくみ、こむらね、かゆみなどの症状が慢性的に続く場合は、静脈瘤の可能性を疑って欲しい。「当クリニックは下肢静脈瘤の日帰り手術に注力しています。特に専門としているのは、細いカテーテルを静脈内に入れ、レーザー光線や高周波で熱を加えることで、必要でなくなった静脈を塞ぐ血管内焼灼術。また新たに麻酔の必要がないグルー治療も導入。手術は誰にとつて

も不安がある。だからこそ患者さんに寄り添うカウンセリングを大切にしています」と語る今村先生。これら手術の所要時間は20〜30分程度。痛みや大きな傷が残ることもなく、術後の安静時間を含めても1〜2時間で完了する。さらに、手術当日は歩いて帰ることができ、翌日からは今まで通りの日常生活が送れるという。放置せずに、気になる方は専門医にご相談を。

注目の低侵襲治療法を導入して 年間約600例の下肢静脈瘤手術に対応

専門医療に
できること!

最新鋭の治療機器を導入
痛み・負担のない手術

最新鋭の波長1470nmのレーザー治療器・高周波カテーテル治療器は、術後の痛みや皮下出血が少ないのが特徴。これが治療時間の短縮につながり、術後の引きつりや鈍痛も抑えられる



症例に合わせて最適な機器を使い分け、可能な限り患者さんの負担が少ない治療法を選択している



1. グルー治療で使用するカテーテル。細いカテーテルから出る接着剤で血管を閉塞 2. 手術室には、より正確な診断ができるよう新モデルのエコーも導入

担当医
今村敦 先生

今村血管外科クリニック院長 / 関西医科大学卒 / 日本静脈学会評議員 / 下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術指導医、脈管学会専門医、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、関西医科大学で准教授を務めたのち、2012年に門真市にて開院。年間約600例以上の下肢静脈瘤手術を手がける。治療総数5,393肢、血管内焼灼術4,780肢(2012年5月〜2022年1月末まで)

